

在宅看護学実習

実習目的

地域の中で健康障害をもちながら療養生活をする人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割について訪問看護師の実践活動から学ぶ。

地域包括ケアシステムにおける多職種協働の意義及び生活を支える看護の機能と役割について学ぶ。

実習目標

1. 地域包括ケアシステムにおける医療提供体制を理解する。
2. 在宅療養者とその家族の人権と尊厳を尊重する自律支援(自己決定支援)の重要性を理解する。
3. 生活を支える医療・看護の実践を通して **QOL** の向上をめざす自立支援の重要性を理解する。
4. 在宅療養者とその家族への援助の実際を通して訪問看護の役割と機能、援助方法を理解する。
5. 安全安心な在宅療養生活を支援するためのケアマネジメントを理解する。
6. 在宅看護に関連する保健・医療・福祉の専門職との連携の重要性と看護職の役割を理解する。

実習期間および実習時間

実習期間 2019 年 7 月中旬～ 2020 年 1 月中旬

実習時間 8 : 30～16 : 0 0 (実習施設により異なる)

実習施設

熊本県内・福岡県内の訪問看護ステーション

実習方法

1. 実習展開

表 1 在宅看護学実習の展開

	第 1 週目	第 2 週目
月	臨地	臨地
火	臨地	臨地
水	臨地	臨地
木	臨地	学 内 (事例研究発表)
金	学 内 (事例研究作成)	学 内 (記録提出)

注 i : 実習期間中の祝祭日は、実習（学内日並びに臨地実習）は行わない。

2. 実習の進め方

1) 事前学習

- ・実習前オリエンテーションを受け、実習施設や実習関連施設の概要／訪問予定者の疾患や障害／その他対象者を把握し介入するために必要なことについて学習する。

2) 事例研究の方法

- (1) 訪問看護に同行する前にカルテから必要な情報を得る。訪問した療養者ごとに訪問看護記録（様式3）を作成する。
 - (2) 木曜日の午後までに訪問した中から研究を深めたい療養者を考えておき、事例検討カンファレンスで研究事例を決定する。
 - (3) 2週目の月曜日に事例研究シート（様式4、5）を完成させ教員に提出する。
 - (4) 教員からの助言を受け修正し、火曜日もしくは水曜日に臨地で事例研究を発表する。
 - (5) 実習指導者の助言を受け修正したものを最終記録として金曜日に提出する。
- * 学生の修正は青色、実習指導者からのコメントは赤色、教員は緑色で加筆する。

3) 実習オリエンテーション

- ・実習初日（施設の都合により変更の可能性ある）に、実習施設についてのオリエンテーションを受け、施設の特徴や施設を利用する地域の人々の特性、関連する専門職種の役割や機能について把握する。

4) カンファレンスの種類と目的、運営

- ・カンファレンスの運営にあっては、学生が司会・タイムキーパーを担当し運営を行う。

(1) デイリーカンファレンス

- ・実習目標に沿ってその日の実習での経験や学びを発表し、学生間及び実習指導者、教員と一日の学びを共有する。

(2) 事例決定カンファレンス

- ・学生の事例研究選択理由と療養者の情報から研究可能であるかを検討する。決定後は療養者に関する情報や助言を受ける。

(3) 中間カンファレンス

- ・学内日に実習前半の学びをグループで発表しディスカッションする。

(4) 最終カンファレンス

- ・事例研究の内容を発表し、臨地実習指導者及び担当教員からの助言を受け、学びの総括を行う。

表2 カンファレンスの方法

種 別	開催時期	開催時間	参加予定者	留意事項
デイリー カンファ レンス	毎日	15～30 分 程度	学生 臨地実習指導者 教員	実習目標に対してのその日の実習内容がどうであったか。
事例検討 カンファ レンス	1週目の木曜日	30 分程度	学生 臨地実習指導者 教員	カンファレンスで検討したい事例を絞り、その事例をどういう理由で深めたいと思ったのか説明できるように準備しておく。
中間 カンファ レンス	1週目の金曜日	学内日に 実施	教員 学生	実習前半の学びをグループで発表しディスカッションする。

最 終 カンファレ ンス	実習最終日、或は 実習終盤	30 分程度	学生 臨地実習指導者 教員	事例研究の内容を発表 し、臨地実習指導者及 び担当教員からの助言 を受け、学びの総括を 行う。
--------------------	------------------	--------	---------------------	---

5) 学内日におけるまとめ

- ・ 1 週目の金曜日：実習施設ごとの小グループに分かれ実習中の体験や学びを共有する。また、それぞれの事例の概要と深めたい課題を説明し意見交換する。
- ・ 2 週目の木曜日：各自の事例を発表し知の共有を行う。その後レポート作成。
- 2 週目の金曜日：実習記録その他の作成、提出。

3. 実習終了後の記録提出方法

1) 課題レポートの作成要領

- (1) 内容 ① 研究事例からの学び及び実習中の経験からの学び。
② さらに自己の課題を具体的に記述する。
- (2) 書式 ① A4 サイズ (11 ポイント 40 文字×40 行) で 3 枚以内にまとめる。
② 2 部印刷しそれぞれに表紙 (様式 0-2) をつける。
(1 部目：実習記録に綴じる／2 部目：綴じ穴は空けずにホッチキスで留めて提出する)

2) 在宅看護学実習記録一式の提出方法

- (1) 表紙(様式 0-1)をつけ、様式 2 と様式 9 以外を様式 1 から様式 8 まで順に綴じ、様式 8 のあとに課題レポート (表紙もつける) を挿入し綴じる。(綴具は先端が丸い物を使用する)
- (2) 様式 2、様式 9、およびホチキスで止めたレポート (表紙を付ける) は上記(1)の実習記録一式に添えて提出する。
- (3) 提出期限：在宅看護学実習最終日 12：30 (提出先：担当教員)

4. 評価方法

出席状況(遅刻／早退／欠席)を基に、評価表に沿って臨地実習指導者と教員が総合的に評価する。

5. 実習時の服装

- 1) 服装、身だしなみに注意し、学生らしい服装を基本とする。

表 3 服装

適 応	服 装	留意事項
施設への往復	リクルートスーツを着用	・ シャツのファーストボタンは留める。 ・ 夏季は、暑さを考慮し上着を調整する。
実習中	ポロシャツ・トレーナー チノパンツ・名札	・ 寒い時期は、実習施設の管理者に防寒着 着用の許可を仰ぐ。
学内日	私服	・ 実習中であることをふまえて華美でない服 装とする。

- ・ 靴は、脱ぎ履きしやすいデザインや清潔感のある色合いのものを準備する。
- ・ 靴下は、黒またはグレーなどの無地の物とし、5 本指靴下は禁止する。

- ・入浴介助等の援助内容によっては、ハーフパンツ、Tシャツ等を各自準備する。
 - ・マスカラ、アイライン、マニキュア、アクセサリ等の使用は禁止する。
 - ・頭髮は肩につかないように束ねて、ピンやネットでまとめ、前髪が長い時はピンでとめる。
 - ・臭いの強い整髪剤、香水、オーデコロン、香の強い柔軟剤等の使用は禁止する。
- 2) 入浴介助、デイケア、グループホーム等への参加時の服装については、前日に臨地実習指導者に確認を行う。
- ・援助内容に適した服装を臨地実習指導者と相談し準備する。
 - ・入浴介助で防水エプロン（入浴介助用）が必要な場合は、大学貸出のエプロンを持参する。

6. 実習時間

- 1) 実習時間は、実習施設の勤務時間に合わせることを原則とする。
- 2) 実習中は常に所在を明らかにしておくこと。（やむを得ず実習施設外に出る時は、事前に臨地指導者に外出目的と行き先、帰る予定時刻を申し出ること）
- 3) 実習中に持参する物
 - ・下記の物以外に必要な文献および実習内容に応じた書籍等は各自準備する。

表4 準備物

大学から貸与する物		自分で準備する物		必要時準備する物	
1	入浴用エプロン	1	実習要項	1	ナースシューズ
2	記録提出用ボックス	2	実習記録	2	ハンドタオル複数枚
3	訪問用サブバッグ	3	誓約書	3	マスク
4	感染症対策グッズ (ディスポ帽子・マスク・予防衣) (手袋・シューズカバー)	4	出席表および印鑑	4	含嗽用コップ
		5	名 札	注 ii 5	着 替 え
		6	メ モ 帳	6	歯磨きセット
		7	保険証のコピー		
		8	替えのソックス		
		注 i 9	クリアーファイル		

*注 i : クリアーファイルは、透明のものを準備し、大学名・学籍番号・氏名を記入しておく。

*注 ii : 着替えは、タオル・靴下・Tシャツ等を援助内容に応じて準備する。

- 4) 実習場までの交通手段は、原則として公共機関を利用し、費用は学生の自己負担とする。
 - (1) 実習中の不測の事態に備え、学生は各自準備を整えておくこと。
 - ・傷害保険の加入と補償内容を確認しておくこと。
 - ・緊急時の連絡先を確認しておくこと。（実習施設／大学／教員／実習中の連絡網 等）

- (2) 実習場までの交通手段として、自動車等を使用する場合は、直前のオリエンテーション時に担当教員に車種・色・ナンバー、任意保険加入の有無を届けでること。
- (3) 学生課に「自動車等による通学許可願い」の届出を済ませること。

7. その他

- 1) やむを得ず欠席・遅刻・早退する場合は、事前に臨地指導者及び担当教員に連絡し、公認欠席の場合は実習終了後1週間以内に教務課に届け出る。
- 2) 実習中に何らかの不慮の事故や支障が生じたときは、速やかに臨地実習指導者に連絡し指示を仰ぐ。
- 3) 実習中に実習生として相応しくない言動があった場合は、実習を中止する場合がある。
- 4) 実習施設で保管されている記録物や実習に必要な参考資料の利用にあたっては、必ず臨地実習指導者の許可を得る。
- 5) 実習施設によっては、駐車許可証が発行される。駐車場所および許可証の取り扱いは施設の指示に従う。

《 緊急時連絡先 》

別紙：後日配布する資料を張り付ける

表 5 実習記録様式一覧

様 式	内 容	留 意 事 項	記入方法
様式0-1	表 紙 「在宅看護学習記録」	・実習場所は記号で記載する。	パソコン記入 または手書き
様式0-2	表 紙 「在宅看護学実習での学び」	・記録方法は様式 0-1 と同様。	パソコン記入 または手書き
様式 1	学 習 課 題	・実習初日に臨地実習指導者へ提出する。3部準備(本人・実習指導者・教員)	パソコン記入
様式 2	出 席 表	・各施設に1枚保有し、毎日捺印し、記録提出用ボックスに入れておく。 ・実習最終日に臨地実習指導者に押印してもらい持ち帰る。	手書き
様式 3	訪問看護記録	・訪問ごとに記入。追加・修正は青ボールペンで手書とする。	パソコン記入 または手書き
様式 4	事例研究シートー1	・1週目に事例を決定後、2週目の初日までに作成し提出する。追加・修正 は青インクでパソコン入力または手 書とする。	パソコン記入 (追加修正は手 書きでもよい)
様式 5	事例研究シートー2		
様式 6	事例研究 検討内容		
様式 7	訪問看護以外の事業等の 参加記録	・訪問看護以外の事業や会議等に参加した 場合に記入する。	パソコン記入
様式 8	在宅看護学実習評価表	・実習最終日(学内日)に必要な事項を記 入し提出する。	手書き
	健康管理自己チェック表	・実習開始前週の金曜日から臨地におけ る実習終了日の午前中までの状況を 随時記入し、実習最終日に提出する。	手書き

注 i : 手書きの実習記録類はすべて黒インクを使用すること。

注 ii : 助言を受けて追記する場合は、青インクで記入、又は追記箇所に下線を引く。

注 iii : 記入内容の訂正は、訂正箇所に二重線を引き(印鑑は不要)余白に訂正内容を記入すること。

注IV : 臨地実習指導者は赤インク、指導教員は緑インクでコメントする。

在宅看護学実習記録

実 習 場 所	＊記号で表現（ グループー ）		
実 習 期 間	年 月 日 ～ 年 月 日		
大 学 名	九州看護福祉大学 看護学科		
学 籍 番 号		氏 名	
担当教員名			

在宅看護学実習での学び

実 習 場 所	＊記号で表現（ グループ ）		
実 習 期 間	年 月 日 ～ 年 月 日		
大 学 名	九州看護福祉大学 看護学科		
学 籍 番 号		氏 名	
担当教員名			

學習課題

[illegible]

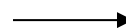
*実習初日に実習指導者に提出する。

出席表

実習場所： _____ 実習期間： _____ 年 月 日 ～ 月 日

学生氏名 実習日					備 考	
					該当者氏名 欠席・遅刻・早退 の種別 (時間／理由)	教員印
月 日 (月)						
月 日 (火)						
月 日 (水)						
月 日 (木)						
月 日 (金)						
月 日 (月)						
月 日 (火)						
月 日 (水)						
月 日 (木)						
月 日 (金)						

実習最終日に押印してもらう



指導者印

実習施設 G一		学籍番号		氏名		
訪問日	利用者属性	主疾患・既往歴	保険の種類	住居形態（間取り図）	身体状況	
	性別		☐ 医療 ☐ 介護		要介護度	
	年齢			家族構成	認知症高齢者 日常生活自立度	
			☐ 新規 ☐ 継続		障害高齢者 日常生活自立度	
利用しているサービス					見学項目	学生実施項目 （一緒に行ったことも含む）
種別	療養者が受けているケア内容					
情報 訪問で見たことや実施したことを中心に記録する			アセスメント			

事例研究シートー1

在宅 様式 4

実習施設No.		記録年月日		訪問看護 提供時間	回/週 分/1回
訪問区分（保 険）	☐ 医療 ☐ 介護 ☐ 新規 ☐ 継続	学籍番号		学生氏名	
事例研究 のテーマ					
事例選択 の理由					

【療養者と家族の状況】

年齢	歳代(前半・後半)	キーパーソン及び間柄	主たる介護者及び本人との間柄
性別	☐ 男 ☐ 女		
主疾患名		住まいの場所	住居の間取りと周囲の環境
要介護度		☐ 自宅 ☐ その他 ()	
認知症高齢 者日常生活 自立度		家族構成（家系図）	
障害高齢者 日常生活自 立度			
身体障害 者 手帳	☐ 有 (級) ☐ 無		周囲の環境
現病歴・ 既往歴か ら 在宅療養 に至った 経緯			・主治医が所属している医療機関 ☐ 病院 ☐ 有床診療所 ☐ 無床クリ ニック ☐ その他_____ ・往診や訪問診療の有無と内容 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 往診 ☐ 訪問診療 (回/) ・医療的ケアの有無と内容（胃瘻や 気管切開、人工呼吸器、ストマなど） ☐ 有 ☐ 無 内容

事例研究シートー1

在宅 様式4

健康状態 現病歴 ・ 既往歴 医療処置 ・ 服薬 （医師の指示内容）	*療養者の疾患名、現病歴、既往歴m合併症などを記載。病気の経過や状態についても詳しく記載すると本人の健康状態を詳しく理解することができる。 *予測される症状や障害など病態の関連を整理する。
身体構造・心身機能	*身長・体重、手足の動き、手足の関節の構造、関節可動域や筋力、心肺機能、皮膚の状態、視覚・聴覚、認知機能、精神面など
活動 ADL （日常生活動作） IADL（手段的日常生活動作） 項目ごとに記述	*ADL：食事、起居動作、清潔、入浴、洗面、口腔ケア、更衣、トイレ動作、移動など *IADL：電話の使用、買い物、料理、運転、掃除、財産管理など
参加/役割遂行 家族、社会における役割と遂行度や内容	*家庭内の家事の役割の他、地域行事の参加、地域のサークル活動、趣味・スポーツ、ボランティアの参加など
個人因子 年代や性別における発達課題、価値観（大事にしていたもの）、現在のライフスタイルなど	*年齢、性別、BMI、学歴、職歴、職位、モチベーションや情緒、趣味 （大卒、専業主婦、会社員、5年前から管理職、疾患の受容あり、自宅復帰への意欲強い、頑張り屋、勤勉など）
環境因子 住居地域、住居、福祉用具、家族（ニーズ）、友人、制度、各種サービス（家族の介護力など）	*物的・地域的環境：居住地域、住居、地域環境（スーパー立地、最寄り駅、道路など）福祉用具など *人的環境：家族、友人、近隣住民との関係、職場同僚などとの交流など *社会制度的環境：社会制度的環境、制度、法令、各種サービスなど

事例研究シートー 2

在宅 様式 5

学籍番号：

氏名：

健康状態 現病歴 ・ 既往歴 医療処置・服薬 (医師の指示内容)	*療養者の疾患名、現病歴、既往歴m合併症などを記載。病気の経過や状態についても詳しく記載すると本人の健康状態を詳しく理解することができる。 *予測される症状や障害など病態の関連を整理する。
身体構造・心身機能	*身長・体重、手足の動き、手足の関節の構造、関節可動域や筋力、心肺機能、皮膚の状態、視覚・聴覚、認知機能、精神面など
活動 ADL (日常生活動作) IADL (手段的日常生活動作) 項目ごとに記述	*ADL：食事、起居動作、清潔、入浴、洗面、口腔ケア、更衣、トイレ動作、移動など *IADL：電話の使用、買い物、料理、運転、掃除、財産管理など
参加/役割遂行 家族、社会における役割と遂行度や内容	*家庭内の家事の役割の他、地域行事の参加、地域のサークル活動、趣味・スポーツ、ボランティアの参加など
個人因子 年代や性別における発達課題、価値観 (大事にしてきたもの)、現在のライフスタイルなど	*年齢、性別、BMI、学歴、職歴、職位、モチベーションや情緒、趣味 (大卒、専業主婦、会社員、5年前から管理職、疾患の受容あり、自宅復帰への意欲強い、頑張り屋、勤勉など)
環境因子 住居地域、住居、福祉用具、家族(ニーズ)、友人、制度、各種サービス (家族の介護力など)	*物的・地域的環境：居住地域、住居、地域環境 (スーパー立地、最寄り駅、道路など) 福祉用具など *人的環境：家族、友人、近隣住民との関係、職場同僚などとの交流など *社会制度的環境：社会制度的環境、制度、法令、各種サービスなど

医療ニーズ アセスメント結果から医療的ケアの必要性を取り出す	生活ニーズ アセスメント結果から生活支援の必要性を取り出す

利用者の望む生活(要望・意向)

家族の望む生活 (要望・意向)

【地域包括ケアシステムにおける社会資源に対するアセスメント】(追加部分は二重下線を引く)

自助	互助
共助	公助

【利用している公的・非公的サービス】

〈現行のサービス内容〉

曜日	月	火	水	木	金	土	日
早朝							
午前							
午後							
夜間							
月間での利用サービス							

〈検討した結果変更したサービス内容〉

曜日	月	火	水	木	金	土	日
早朝							
午前							
午後							
夜間							
月間での利用サービス							

事例研究 検討内容（記録する際＊印削除）

〈検討項目 1〉 ＊検討項目は必要数設定する

事例で気になった内容	＊理由とともに記述する
療養者の自立支援の方向性	＊療養者（または家族）を主語とする ＊短期目標に相当すると考える
具体的な支援内容	
＊自立支援の方向性（短期目標）を達成するために必要な看護の内容を必要に応じて記述する。 必要な観察項目や実施内容、教育・指導内容、または家族への介入、サービスの変更や追加、主治医への相談、多職種連携の具体的内容、互助への働きかけ、制度利用や変更、住宅改修、業者との連携、新しい医療機器の導入や変更、地域包括支援センターの利用、コミュニケーションを可能とするツールの導入、その他。	

〈検討項目 2〉

事例で気になった内容	
療養者の自立支援の方向性	
具体的な支援内容	

〈検討項目 3〉

療養者の自立支援の方向性	
具体的な支援内容	

【事例及び在宅看護における指導・助言】

実習指導者	実習施設の指導者から
A 氏	
B 氏	
C 氏	

指導教員名	指導教員から
㊦	

訪問看護以外の事業等の参加記録

(デイケア・施設内機能訓練・グループホーム・居宅介護支援事業 等)

事業名 _____ 参加日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____ 曜)

学籍番号： _____ 氏名： _____

1. 事業の根拠となる法的制度

2. 事業の制度目的

3. 参加した事業の内容

* 学生が参加した事業について利用者の状況、関連職種の役割および学生の行ったことなどを記入する。

4. 事業の有用性

* 参加した事業は、利用者・住民にとってのどのような価値があるかを考察し、その内容を記述する。

5. 学び・気づき

* 事業に参画している看護職の役割や看護職の視点で学びや気づきを記述する。

実習評価表(在宅看護学領域)

在宅 様式8

実習場所 (G -)

実習期間 年 月 日 ~ 月 日 学籍番号

氏名

項目		評価内容	学生自己評価		指導者 評点				
			根拠	評点					
事前学習	1	実習に必要な事前学習を行うことができた			—	1	2	3	4
役割理解	2	在宅療養者の身体的・心理的・社会的特性を説明することができる			—	1	2	3	4
	3	地域包括ケアシステムとその必要性を説明できる			—	1	2	3	4
	4	地域包括ケアシステムにおける訪問看護(ST)の機能と役割が説明できる			—	1	2	3	4
	5	在宅療養移行支援の動向と看護と介護の一体的提供の必要性について説明できる			—	1	2	3	4
	6	地域包括ケアシステムにおける多職種協働の必要性とその意義が説明できる			—	1	2	3	4
	対象事例の研究解の展開と自立支援	7	事例を選択した理由(どこに着眼したのか)を説明できる				1	2	3
8		事例研究ケースの全体像をICFツールを用いて説明できる				1	2	3	4
9		事例研究ケースの医療ニーズについて説明ができる				1	2	3	4
10		事例研究ケースの生活ニーズについて説明ができる				1	2	3	4
11		事例研究ケースの自立支援の方向性について説明ができる				1	2	3	4
12		事例研究ケースが生活している地域の特性と社会資源について説明できる				1	2	3	4
13		事例研究ケースの今後の課題を説明することができる				1	2	3	4
実習態度	14	「看護者」の一員であることを自覚し責任を持って実習に取り組むことができた				1	2	3	4
	15	実習に必要な学習を積極的に行うことが出来た				1	2	3	4
	16	自己の意見を主体的に述べたり傾聴共感的コミュニケーションを行うことができた			—	1	2	3	4
	17	グループ内で協力し合いリーダーシップ、メンバーシップを発揮することができた			—	1	2	3	4
記録	18	実習内容を記録用紙の指示に従って記録することができた			—	1	2	3	4
	19	記録は実習の内容に沿ったものとなっておりアセスメントは適切であった				1	2	3	4
	20	教員や指導者の助言・訂正を受けて遅延なく記録の修正をすることができた			—	1	2	3	4
	21	提出物の期限を実習期間を通して厳守することができた				1	2	3	4
課題レポート	22	適切なテーマを設定し内容がテーマに沿った展開となっている				1	2	3	4
	23	文字数は適切であり、誤字脱字なく正しい文体で書かれている			—	1	2	3	4
	24	具体的な例をあげそこからの学びや自己の課題が明確になっている			—	1	2	3	4
	25	本文中に内容に適した引用箇所・参照箇所を明示し、文献名を正しく表記している			—	1	2	3	4
合 計 点 数					出欠状況			減点	
評価記入日 年 月 日					欠 席		日		点
指導者総評	氏名 _____ 印				遅 刻		日		点
					早 退		日		点
教 員 総 評	氏名 _____ 印				記録提出		分延長		点
					最終判定				
					評点	点			
					評価	A B C D			

4. できた 3. どちらかというとき 2. どちらかというときなかった 1. ほとんどできていない

氏名：

実習記録最終提出時間および確認者

提出時間	担当教員名
時 分 (分延長)	

学内最終日様式毎の提出確認

(2) 実習記録綴りに添えて提出する様式

(注 i : 様式 2 はグループ単位提出／注 ii : 2 枚以上の物はホッチキスで留める)